

ラグビーワールドカップ2019を通じた地域活性化についての調査研究 報告書(概要版)

1. 調査の背景と概要

- 2019年にラグビーワールドカップ2019日本大会(以下「RWC2019」という。)が日本で開催される予定である。RWCは、大規模な国際スポーツイベントであり、**開催期間の長さや海外からのビジター数の多さを特徴としており**、試合開催会場の所在都市(以下「開催都市」という。)やその周辺の地域を中心に、国内外からの多くのビジターの流入による経済効果等の波及効果が見込まれている。
- 本調査研究においては、RWC2019日本大会の開催に向けて地域活性化が図られるよう、これまでの大規模な国際スポーツ大会における各国の地域活性化のための取組の調査・分析を行い、**RWC2019日本大会において期待されるレガシーについて整理した。**

RWC2019概要	
大会期間	2019年9月20日～11月2日
参加チーム・試合数	20チーム・48試合
試合開催会場	12会場
公認チームキャンプ地	90自治体76カ所の応募

2. レガシーとは

- ラグビーワールドカップ2019の開催は、その有形・無形の遺産(レガシー)を創出することを通じて、大会開催期間はもちろん大会開催後においても、スポーツの振興のみならず、地域経済の活性化を通じた地方創生への貢献、文化プログラム等を活用した日本文化の魅力の発信、震災復興の推進や教育活動の一層の推進又は観光や国際交流の促進等の社会的・経済的発展に貢献できると考えられる(「ラグビーワールドカップ2019の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針」(平成28年2月24日、関係府省庁申合せ))。
- 本調査報告書においては、有形・無形のものを含めて、**「大会をきっかけにして、社会、地域、人々の心に残るもの」**をレガシーと捉えて整理する。

3. RWC2019で期待されるレガシー

分類	レガシー	内容
大規模国際スポーツ大会において共通な傾向	スポーツ振興、スポーツ施設の整備	ラグビーワールドカップの開催を通じ、試合開催会場や公認キャンプ地のスポーツ施設の整備や、地域の学校やラグビークラブにおけるスポーツ施設の整備が期待される。
	開催都市や公認キャンプ地の国際的知名度向上、スポーツ都市としてのブランド化	ラグビーワールドカップの試合や公認キャンプの開催を通じ、世界へと都市をPRすることにより国際的知名度の向上が期待される。 ラグビーワールドカップの試合や公認キャンプの開催を実績とし、スポーツ施設の整備や運営ノウハウの蓄積、人材の強化等を行い、将来の更なる国際的なスポーツ大会の誘致につなげることが期待される。
	ボランティアの育成	ラグビーワールドカップのような大規模スポーツイベントの開催を通じ、地域住民のボランティアマインドを醸成することが期待される。
	文化振興	ラグビーワールドカップにおいて開催されるフェスティバルイベント等の機会を活用し、地域独自の文化を発信できる。
	交通インフラの整備	ラグビーワールドカップの開催を通じ、会場、トレーニング施設や宿泊施設を中心に、交通インフラの整備を行うことが期待される。
	地域経済の活性化	大会の開催を通じ、雇用創出やビジネス機会の創出により、地域経済の活性化につなげることが期待される。
ラグビーワールドカップにおいて特徴的な傾向	ラグビー振興	ラグビーワールドカップの開催を通じ、ラグビー施設の整備等により競技としてラグビーが浸透することが期待される。
	観光振興	ラグビーワールドカップの観客は、試合の観戦の間に、開催自治体や周辺を周遊し、観光を行う。そのため、RWC2019の開催を観光振興につなげることが可能である。 特に、決勝トーナメントの開催自治体においては、試合が週末に集中して開催されるため、その間の観光消費を促す取組が有効であると考えられる。
近年の大会において特徴的な傾向	多様性への理解	人種、年齢、障害の有無、性(ジェンダー)等の多様性を許容する社会を実現する機会となることが期待される。
	サステナビリティ(持続可能性)やアクセシビリティへの配慮	環境に配慮するとともに、バリアフリー等のアクセシビリティに対応した社会の実現に寄与する機会となることが期待される。
日本国内の大会に特徴的な傾向	国際交流・国際化	ラグビーワールドカップでは、試合の開催や公認キャンプの開催を通じ、参加チームの国・地域との国際交流の最適な機会となりうる。
	子供や若者への教育	ラグビーワールドカップの開催が、参加チームの国・地域についての学習機会となり、子供や若者への教育効果が期待される。